



9月は『キバナコスモス』

You Ain't Heard Nothin' Yet ! ヤー!

Vol.40 2022.9.10 えんじょい工房・『YAH!』編集室

悪い奴ら

連日、“悪事”を暴かれて、されどしらを切ろうとしている顔が並ぶ。中でもとりわけ悪人顔（もうイメーシだが）、賄賂をもらったとされるあの人。3億円の保釈金で世に放たれてしまふ者、とにかく逃げ隠れて時を稼ごうとする者、いろいろいらつしやるが、この人の顔が特に悪人顔、刑事ドラマでも明らかに犯人、もしくはその背後にある人物といったところか。この人にもいいところはあるのだから、もう映像はそれを許さない、日に日に悪人度は上がる一方だ。これはなかなかに収拾はつかない（ついてはいけない!）。

映像も時には嘘をつく。恣意的な演出がまたそれを際立たせ、尾ひれを加えた上で信憑性すら裏から貼りつけることさえしてしまふ。恐ろしいが、かといって次々ととってん式に記憶の彼方に追いやられてしまふ、つまり盛り上がった分だけはやく忘れられてしまふ、忘れさせてしまふ、こちらの方が更に空恐ろしい。悪人は悪人として、悪人顔を貫き、それを全うして大団円を迎え、相応の罪を償って欲しいものだ。

【こんな唄に出くわした⑧】

オールドタイムジャズ

作詞・曲 佐藤三樹夫
歌 高橋真梨子

ネエ淋しいのなら
ここに来てもいいわ
ドアを三回静かに叩いて
ワインも薔薇も何もいらぬわ
タクシーとぼして一人で来てよ
酔えないお酒を飲んでのね
間違ひみたいだにダイヤルまわして
想い出話は好きじゃないけど
今夜だけあなただけ
つきあってもいいわ
オールドタイムジャズ
あの頃はやりの
オールドタイムジャズ
レコード聴きながら
オールドタイムジャズ
一晩だけなら
オールドタイムジャズ
あなた 抱いてもいいのよ

高橋真梨子の歌にはいろいろな路線があつて、例えば時間を操つたり、神々まで登場する“SFファンタジー路線”には、『君の海へ』や『アフロディーテ』、オリンピックのイメーソングなどもここに入るだろうか。“ドラマ仕立て路線”に『ごめんね』や『フレンズ』があつて、『五番街』や『ジョニーへの』がこの路線のルーツかもしれない。とりわけちょっと暗めの“サスペンス路線”として、この『オールドタイム・ジャズ』、『裏窓』、そして、最近になって、オリジナルではないが、こんな曲に出くわした、それが『恋心』。

【今月の花 九・長月】

キバナコスモス

この時季、いたるところで咲いている。色的にはかなり派手で、目にも眩しいほどだが、存在は地味で、主張がない。散歩の折に出会っても、足が止まるのにやや“思い切り”を要したものだ。

【こんな映画を観てきた】

『第三の男』The Third Man —1949/英 監督:キャロル・リード

第二次大戦終戦直後、米英仏ソの四カ国による分割統治下にあったウィーンに親友ハリー・ライムを訪ねてきたアメリカ作家のホリー。だが、ハリーの家に着くと守衛からハリーは交通事故で死亡したと告げられる。腑に落ちないホリーは真相究明に奔走するが……。出演はジョセフ・コットン、アリダ・バリ、オーソン・ウェルズ。これはもう名作中の名作！まさに光と影の芸術である。闇の中から浮かび上がるハリー（オーソン・ウェルズ）の悪戯っぽい笑顔が忘れられない。またモノクロであつてこそその作品で、色がついたら興覚めどころか、全てが台無しだろう。さすがに封切りでは見えていない（生まれていない…）が、おそらくテレビ放映が最初だったと思う…もう半世紀近くも大昔のことになるが、この地を訪れて、三角形に開くマンホールの蓋を探してはみたもの見つからず、それでも高所恐怖症をも省みず乗り込んだ、欧州一高いといわれたプラター広場の観覧車に乗り込んで震えていたことを思い出す。